

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.4 浴槽用浮き輪による溺水、

No.18 解決したはずの浴槽用浮き輪による溺水 (2009年3月, 10月の2例) の類似事例

事例	年齢： 8か月 性別：男 体重： 8.6kg	
傷害の種類	溺水	
原因対象物	赤ちゃん用浮き輪 (67cm)	
臨床診断名	呼吸停止 (心停止は不明)	
医療費	387,380円 (うち、入院費用は 336,220円)	
発生状況	発生場所	自宅の浴槽内
	周囲の人・状況	母と一緒に入浴しており、母が着替えを取りに1~2分だけ目を離した。
	発生年月日・時刻	2013年1月3日 午後10時30分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	午後10時半過ぎ、自宅の風呂でいつも使用している浮き輪を使って入浴させていた。母が着替えを取りに1~2分間ほど目を離した。その後、浴室に戻ると浮き輪の中に本人がいないことを発見し、見ると浴槽内に沈んでいた。浮き輪はひっくり返ってはいなかった。すぐに浴槽内からすくい上げて、同居している祖母に助けを呼んだ。全身チアノーゼで呼吸をしていなかったため、祖母が救急要請を母に指示しながら人工呼吸を20回ほどしたところ、少量の水を嘔吐した。それでも反応がなかったため胸骨圧迫を20回ほど施行した。徐々に反応が見られるようになり、救急隊が到着した際には啼泣しており、酸素投与をしながら救急搬送された。
治療経過と予後	当院到着時、意識レベルはJCS3、GCS13 (E4V4M5)であった。目線は合うが、たまに泳ぐことがあった。酸素投与にてSpO2は100%、呼吸数は40-50回程度で、時折うがいのようなごろごろとした音がするため適宜吸引を行なった。循環動態は安定していた。胸部レントゲン写真にて右上肺野を中心に浸潤影が認められ、水の誤嚥が強く疑われた。緊急の気管挿管、人工呼吸管理の適応はなかったが、今後の呼吸状態の悪化の可能性があったため集中治療室へ入室した。来院時の頭部CTでは異常を認めなかった。入室後、呼吸状態は悪化することなく経過し、1月6日に一般病棟へ転棟し、麻痺や失調などの神経学的な異常を認めることなく1月8日に自宅に退院となった。	

注：今回の浮き輪は「浴槽用浮き輪」ではありませんが、発生のメカニズムが同じなので類似例として取り上げました。



事故の際に実際に使用していた赤ちゃん用浮き輪